

事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和3年3月10日

事業所名 Kids花音 回収率 100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		プレイマットを広く敷いて利用者・職員がのびのび活動できている。一人当たり3.3m以上をクリアしている。	
	2	職員の配置数は適切である	8		適正である	利用児童の増加に備え、さらに看護師・理学療法士・保育士を増やしたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		出入口はバリアフリーになっている。注意が必要な箇所には蛍光のテープを貼り、注意をするように工夫している。また、情報をわかりやすく掲示している	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	年齢に合った遊び道具があり、スペースにもゆとりがある	寄贈などにより物が増えてきたので、整理してより安全に過ごせるようにしたい
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	1		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			保護者の意見や意向に寄り添うように努力している
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		実施に向けて計画していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	社内研修や重症児ネットワークの研修に参加しスキルアップに努めている。	スキルアップのための研修の機会を増やしていきたい
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			保護者のニーズを参考に、適切な個別支援計画を作成している
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		重症児専用のアセスメントツールを作成し使用している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		個別支援計画を意識して支援できるようにファイルを常に確認するようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		日頃からプログラムの立案を話し合う機会を多く持っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		固定化しないように、日々新しいプログラムについて研究している	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8		成長や体調に応じて、適宜個別支援計画を作成し直している		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		出勤後、送迎までの時間を使い、その日の支援内容や役割分担についての打ち合わせをしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	医療的ケアの変更事項など、特に重要な点については必ず支援終了後に打ち合わせを行っている	情報共有がもっとうまくできるようにノートをもっと活用したり良い方法をさらに考えていく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		医療的ケアや気になったことなどは、毎回必ずその都度記録するようにしている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		3カ月に1度実施している	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達支援管理責任者が参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8		子どもと関わりの深い関係機関とは連携を取ることを心掛けている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8		適宜、主治医と連絡を取り、情報を共有している	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	コロナによる緊急事態宣言発令前には、特別支援学校の教師と対面して情報共有を行っていた	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2		小さいお子さんが多く、まだ対象児童が少ないため、今後検討していきたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		他の事業所とも連携をし、適切な支援ができるようにしている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7	1		近くの公園でのお散歩で、他の保育園の園児と触れ合ったりしてよいと思う
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	2		今後積極的に参加したい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時や連絡帳・電話・メール等で子どもの状態や課題について、話し合う機会を多く設けている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1			
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		小さなことでも悩みを打ち明けやすいような良好な関係を築いている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等に	7	1	今年度は7月に開催済み	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		定期的におたよりを発行したり、必要に応じて情報を発信するように心掛けている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		個々の情報をきちんと一人一人ファイリングして鍵付き書庫に保管している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		意思疎通ができない子どもにもきちんと声掛けや挨拶をしている。保護者とはこまめに連絡を取っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	1	コロナの感染予防の観点から今年度は行うことが難しかった	今後実践していきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		緊急時や感染症など、それぞれのマニュアルを作成して周知や訓練を行っている。	起こりうる事態を想定した訓練を、実施していきたい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		火災や地震を想定した避難訓練を年に2回実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		契約時に医師からの指示書の提出をお願いしている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		契約時に医師からの指示書の提出をお願いしている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1		事例集を作成することで、より身近な問題として考えられると思うので、作成していきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	虐待に当たる行為について職員間で周知するための研修の機会を設けている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。